

## 第3回策定委員会概要

日 時：令和5年5月9日（火） 10:00～12:00

会 場：熊野町役場3階301-302会議室



### 1. 開会

### 2. あいさつ

#### 熊野町 三村町長

- ・本日は、熊野町立地適正化計画策定委員会にご出席を賜わり厚く御礼申し上げます。
- ・全国的に人口減少の流れの中で、本町の人口はここ10年の間、毎年170人程度の減少が続いていたが、令和4年度は平成15年度以来わずかながら人口増に転じている。要因としては、熊野トンネルの無料化、商業施設の充実など本町の利便性が寄与しているものと認識している。引き続き本計画の策定においても、コンパクト・プラス・ネットワークなどで、持続可能なまちづくりを推進するとともに、さらなる、定住、移住の促進、公共交通、災害に強いまちづくり等の課題に向け、皆様方のご意見をお伺いしながら、快適さ、豊かさなどを感じられる地域特性を活かした個性のあるまちづくりに繋げていきたい。
- ・皆様方におかれましては前回に続き、ご専門の立場から忌憚のないご意見を頂きますよう、お願い申し上げます、挨拶とする。

#### 事務局

《配布資料の確認》

《欠席者》

- ・根本委員（公益社団法人 広島県不動産鑑定士協会 会員）

《年度変更により新たに就任した委員の紹介》

- ・北村委員（熊野金融懇談会 幹事 呉信用金庫熊野支店 支店長）

#### 田中会長

- ・本日はお忙しい中、お集まりいただき御礼申し上げます。
- ・円滑な議事進行に努めてまいりたいので、よろしくお願ひする。
- ・熊野町立地適正化計画策定委員会設置要綱第6条第2項に基づき、本日の出席人を確認させていただく。ただ今の出席者11名。定足数に達しているため、会議としての成立していることをここにご報告申し上げます。
- ・議事は次第に沿って進めさせて頂く。議題（1）「報告事項」について、事務局から説明をお願いする。

### 3. 議事

#### (1) 報告事項

##### 事務局

《第2回委員会以降の取組みに関する報告》

- ・住民意見聴取会（ワークショップ）
- ・計画策定に係る庁内関係各課ヒアリング
- ・熊野町立地適正化計画 職員ワークショップ

##### 全委員

（事務局からの報告について意見・質問等なし。）

#### (2) 第2回策定委員会の意見と対応

##### 事務局

《第2回策定委員会の意見と対応について説明》

- ・人口データの詳細な分析の報告
- ・解決すべき課題の修正についての説明

##### 高井委員

- ・転入が増えているということで、広島県下では、廿日市市、海田町に次いで熊野町が3番目ということだが、一時的な転入増加ではなく、今後もこういう傾向が続くのか。ずっと続いていけば、熊野町の人口減少はないが、おそらく将来を考えると、総合計画の値に近づくのではないか。そのあたりをどう考えているのか。
- ・人口を年齢別にみた時、子育て世代の40代の年齢が少ない。その年代をどのように増やしていくのか。これから少子化なので、子どもが減るのは仕方がないが、子育て世代を少しでも熊野町に留めるということを考えていくと、そういう層を増やしていくにはどうすればいいのか。

##### 事務局

- ・転入が増えているということに関して、一時的なものかどうかという点について、今の段階でこれがずっと続くかということは、長い視点からみれば難しいと思われる。どうしても自然減が発生するものなので、人口減少は進んでいく。今、熊野町に活力がある状況の中で、極力人口を増やしていくための施策を考えていきたい。

##### 高井委員

- ・安芸バイパスや熊野トンネルの無料化などで一時的に伸びたのかもしれない。定住を促進するには、熊野町が持つ自然などの魅力が非常に重要である。移住にしてみても、若者が来れそうな環境を如何に熊野町に整備するか。人口をできるだけ減らさないという努力が必要。

## 事務局

- ・人口の考え方に関しては、次の基本的な方針でお話しさせていただく。

### (3) 熊野町立地適正化計画の基本的な方針等

## 事務局

《熊野町立地適正化計画の基本的な方針等について説明》

## 矢吹アドバイザー

- ・立地適正化計画の役割、作成する意義について共有させていただきたい。
- ・立地適正化計画が自治体の課題を全て解決できるわけではなく、特に人口維持計画ではないと思っている。コンパクト・プラス・ネットワークの考え方はこれからの人口減少社会が到来することを前提に、どのように行政機能を維持していくのかということの計画だと認識している。人口をどう維持していくのかを解決するための計画ではないということの問題提起したい。人口は減少するがどうやって豊かに実りある都市を築いていくかということだと考えている。人口を増やす計画ではないということを示したい。
- ・そこで、課題をどう分析するのか。人口動態は背景として、全体として押さえておくべきだが、あくまで、立地の適正化なのでエリア的な議論が必要。熊野町が数十年をかけてどのようにまちができてきて、どこで人口が増えていったというような視点が必要なのではないか。
- ・人口の転入増というお話もあったが、その転入者をどこで受け止めているのか。多くのまちであるのは、誘導区域が設定されるような区域ではない所で、新しい転入者を受け止めている事例が非常に多い。よくあるパターンとして、線引きのラインぎりぎりのエッジの部分で宅地開発がされ、そこに新しい若い人たちが入ってきて、まちの真ん中や既存の団地では人口減少が依然として進んでいるという構図がみられる。その辺の分析をされてみてもいいのではないか。
- ・そういう面的な問題分析をした上で、熊野町としてどういう都市構想を目指していくのかという議論をしていくと資料 57 ページ以降の立地適正化の方針の議論に繋がっていくのではないか。
- ・資料 57 ページの前後で分断があり、ストーリーとして流れが見えにくいと思う。

## 事務局

- ・転入増はどこで受け止めているのかというご意見について、推察のとおり市街化調整区域内の縁辺部で宅地開発が進んでおり、年間 4、5 件の開発申請が出ている。
- ・熊野団地に関しては、全体的な人口推移や、熊野町が今まで行ったまちづくりに関する整備についても、これまでの第 2 回策定委員会で説明をさせていただいており、第 1 回策定委員会でも人口がどのように動いているのかという点を踏まえ、町の現状を説明させていただいた。本委員会では、資料 17 ページに熊野町の人口推移について、年齢層を分けて書いているので、それらを合算したら全体が見えてくると思う。熊野団地ができた昭和 40 年代から急激に人口が増加しているという状況で、平成 12 年から横ばいで推移し、平成 15 年から減少に転じているという流れで把握している。
- ・資料 57 ページ以降のターゲットから方針に移るところで説明が不足した点があり、分かりにくかったというご意見を踏まえ、今後考えて対応したいと思う。

## 矢吹アドバイザー

- ・人口の全体のマスとしての動きはつかんでいるが、懸念しているのが、まちのエリアのどこで人口が増えて、どこで減っているのかということで、エリア的な動態と、歴史的にどのようにまちが広がってきたのかということを押さえる必要がある。この立地適正化計画は、立地の適正化なのでどこにということが重要で、コンパクトシティを議論するためには、町全体の動向だけでなく、まちの中のさらにどこで増減しているのか、もう少し切り分けた面的な分析が必要ではないかという趣旨で申し上げた。

## 事務局

- ・その点に関しては、資料 25 ページに地区別の人口推移を整理しており、前回の策定委員会で熊野団地 30%減少、他の地域も若干緩やかに減少している傾向にある。
- ・今回、この熊野団地の分析を行い、議題 2 でその分析結果をご説明させていただいた。そういった点を踏まえ、熊野団地の減少は、集合住宅の老朽化や再編により、世帯数が急激に減少していることに加え、少子高齢化の波を受け、一世帯当たりの人口も減少するなど、複合的な要因により減少しているという分析としている。

## 田中会長

- ・熊野団地以外のエリア毎の面的な分析がもう少し必要というご指摘をいただいたと思う。

## 栗原委員

- ・熊野団地に在住しているが、人口減少、高齢化が進んでいると感じている。
- ・熊野町の自治会連合会は「自治会の活性化」を研究テーマとしているが、声も弱い、力も弱い。自治会加入者が 70%台となっている。先日の総会では、高齢で班長ができないという理由で、自治会を脱退させていただきという方が何人かいた。
- ・どうすれば地域が活性化するのか。まちづくりの基本は地域にあると考えており、地域のコミュニティをどう作っていくのか、皆で協力し、誰も置き去りにしない地域づくりをどのように進めるのか常に考えている。
- ・若い世代、子育て世代に来てほしいというのが多くの町民の願いではないか。そういった人に熊野に来てもらうためには、子どもたち、親御さんが信頼できる教育をすることが必要である。熊野町の特徴として、幼保小中高の連携に取り組んでいる。こういった取り組みを町外に広く周知すれば熊野町に興味を持つのではないか。
- ・また、若い世代、働き盛りの世代をターゲットにするのであれば、町内の中で雇用の場が必要である。生活できるだけの収入があることが必要である。生活できる地域づくりを如何にしたらよいか考えていきたい。

## 事務局

- ・頂いたご意見について、今後検討していきたい。

## 廣中委員

- ・人口の状況について、今後、立地適正化計画は、居住誘導区域や都市機能誘導区域の区域を設定していくが、導入する施設等を考える際に資料 28 ページの人口のように地区単位で誘導施設等を考えるのか、熊野町全町一区で考えるのか。今回の資料は、熊野町全町一区のように感じられる。
- ・都市計画マスタープランでは拠点を西部地域、中央地域、東部地域の 3 つ設定している。地域毎に立地適正を考え、進めた方が良いのではないかと。今後、誘導施設を考える時、全町を一つで考えるのではなく、地区毎に特性、人口の状況も違うので、居住、生活を維持しようとした時に、どのような都市機能が必要になってくるのか検討すべきではないかと。地区毎に人口の動き、都市機能がどのように配置されているのか、今後、町として、施設をどこに建てるのが町民にとって生活を維持されやすいのか検討していただきたい。
- ・居住誘導区域の設定の際に、将来のまちのあり方を加味し区域を設定する必要がある。公共交通、今のバス路線が将来にわたって維持されるのか、減少するかによって、今の生活レベルが維持できるかを踏まえて、区域設定をしてほしい。
- ・資料 56 ページ、「課題 1 及び課題 3 に対応」について、「市街化区域－ハザードエリア≒居住誘導区域」という表現があるが、立地適正化計画の一番のコアは、将来にわたって生活を維持できるための区域設定や施設の立地、統廃合を考えた時に、ここだけで考えてほしくない。店舗や医療など施設の立地状況、公共交通計画の動きをよく見た上で居住誘導区域、区域の設定を行ってほしい。
- ・熊野町のイメージとして、広島に近い、簡単に来れる、広島より安く土地が購入でき、生活ができ、自然が多く、筆という地域の観光資源がある町だと思うが、その強みをもっと計画の中に盛り込むことができないのか。今後の方針に豊かな自然環境の観点も入れてほしい。
- ・資料 60 ページの災害リスクに関しては、居住誘導区域を設定し、誘導することのみが安心・安全のための施策でなく、ハード・ソフトを合わせた施策を位置付けて頂きたい。
- ・道路については、東広島バイパス、安芸バイパスはあるが、町内道路事業や周辺市町の道路ネットワークの整備も必要であるため計画に入れてほしい。
- ・最終的な計画には国・県（砂防整備など）の施策についても入れてほしい。
- ・資料にボリュームがあり、内容が難しい。町民の方が読んでわかるような構成にできないか。将来像が都市計画マスタープランの将来像、まちづくりの方針の将来像といろいろ出てくる。方針も、まちづくりの方針、立地適正化計画の方針、それらがどのように導き出されたのかわからない。もう少し簡単なまとめ方があってもよいのではないかと。現状 SWOT 分析をされているが、どのように方針や将来像に繋がっていくかをわかりやすく示してほしい。現状、課題、方針、将来像が関連付けられるような整理にしてほしい。

## 事務局

- ・居住誘導の考え方について地域別に落とし込んで考えたい。
- ・今後の施策の展開について、自然環境や居住誘導のハードの位置付けも踏まえ、示していく。道路について広域連携軸についてわかりやすく書かせていただく。
- ・資料全般について、分かりやすく体裁を整え、住民の方に分かりやすく、見てもらいやすい概要版等を作成し、周知を行っていく。

## 山根委員

- ・公共交通との関係は、立地適正化計画の大きなテーマになると思う。先般、地域公共交通会議にも出席した。本日の説明の中で、立地適正化計画と公共交通計画の関連性について、立地適正化計画が上位のように伺ったが、エリア別の考え方というところで、公共交通の人の動き、人の流れもエリアによって変わってくると思う。エリア内で完結する移動、拠点地区への移動、町外への広域の移動それぞれに応じた交通体系が必要になってくると思うが、その前提として、町の中で各エリアの人の動き、施設との関係等と関連があると思うので、立地適正化計画のエリア別での姿やイメージが見えてこないと公共交通の計画の検討が難しくなると思う。立地適正化と公共交通計画を連携、関連付けさせながら両方の計画を考えていく必要がある。

## 事務局

- ・公共交通計画とも連携して進めようと思う。

## 高井委員

- ・3つの地域があり、1つの都市拠点、2つの地域活動拠点が、それぞれの地域の拠点で何が足りないのか、何が今後必要になるか、検討を進めると必要な施設が出てくる。誘導施設が色々考えられるが、人口規模を考慮した上で熊野町に必要な施設を選別し、他の施設は他市町とのネットワークで補う。そのために交通ネットワークが必要。交通ネットワークを作るためには交通計画が必要であるため、必要な施設などキーとなるポイントを前もって計画に反映すべきである。交通計画をきっちり作れば、身近な場所に機能が無くても、熊野町での生活水準が高まり、人が集まってくる、というようなご説明だったと思う。

## 事務局

- ・地域ワークショップ等を通して困りごと等把握しているので、解決できるような方向性を出していきたい。

## 神田副会長

- ・熊野の強みは何かと考えると、広島都市圏の郊外住宅地の似たような属性を持つ地域と比べても、熊野町は自治する権利があることが強みである。まちづくりが主体的にできるということを活かすことができないか。
- ・資料 55 ページの基本方針について、自治する権利を持つことを踏まえて、誰が都市、交通を含めて町を司るか、体のそれぞれのパーツで表現したとすると、「脳」の部分が抜けている。色々な計画でも、最後に実施体制や、マネジメントサイクルが出て来ると思うが、その部分を早い段階から意識しておかないといけない。ただし、PDCA、KPI 等を期待するものではなく、根幹の部分に関わるので、町を司る「脳」としてのあり方というところが重要な方針として入ってくるべき。
- ・エリアによっては人口を維持する目標があっても良いかもしれない。熊野団地は人口に波があるが、フラットにできた場合、先ほどあげられた自治会の問題はなかったかもしれない。
- ・分譲と賃貸のバランスをコントロールするエリアがあっても良いかもしれない。ある程度賃貸を残すことで町の資産価値を維持することも考えられる。そうすれば町の固定資産税の税収増にも

繋がる。必ずしも、インフラの維持という面ではなく、収入増という目線もあるということ意識しておくことが重要である。

- ・地域毎にエッジを効かせてもよい。ライフスタイル、ライフストーリーに応じた町の中での暮らし方を明らかにした方が検討も進めやすく、民間側の投資もしやすくなる。踏み込み過ぎ、メリハリをつけすぎなど、行き過ぎの場合は次の委員会で揉んでいくような形でも良いかと思う。

### 事務局

- ・「脳」、マネジメントに関してもありきたりのものでなく、工夫して示したい。
- ・エリア別についてもこれまでのご意見も踏まえて、考えていきたい。
- ・その他の施策についても次回に落とし込みがしっかりできる形でお示ししたい。

### 宮田委員

- ・熊野の筆祭りの準備として町内を歩いた。熊野町はすごく道が狭い。道路の使用を警察に依頼したが、許可されなかった。筆祭りの一日だけでも認められなかった。とにかく道が狭いと改めて感じた。
- ・阿蘇門前町のようなまちづくりを熊野町でもやってみてはという提案をある方から頂き、実際に阿蘇門前町行ってみたところ、熊野町より静かな町に、平日のお昼時、観光バスが押し寄せてくる。まず、食べる所、働く所があれば熊野町も活性化するのではないか。
- ・役場が主体的に「脳」の部分を作っていただきたい。そうすることで、交通もまわってくるのではないか。
- ・工場誘致等、人を呼んでいただきたい。東広島、呉、広島我真ん中にある利点を活かせるのではないか。
- ・資料を簡単にしていただくと説明しやすい。

### 事務局

- ・道が狭い、食べる所がない、働く所がないというのは感じている。関係部署と協議し、施策について検討を進めていきたい。

### 田中会長

- ・意見を整理させて頂く。
  - 課題と方針、将来像の関係性やつながりをシンプル化できると良い。
  - 現状では全町一地区の雰囲気を感じるところが課題であり、人口、歴史、施設の立地状況、公共交通等、エリア毎に区切った分析とそこからの方針が示されると良い。それぞれのエリアについて方針やキーになるポイント、エッジの効いた将来像が示されると良い。
  - 熊野町の強みとして例えば、まちづくりの自治権、豊かな自然環境、筆という観光資源、広島市・東広島市・呉市へのアクセスの良さ、地価の安さ等を全体的に押し出した方が良い。
  - 誰が町を司るかの脳のあり方を考える必要がある。コミュニティとも関連すると思う。
  - 公共交通との連携について、一体で考える必要がある。
  - 人口規模を維持することを考える地区と、人口を増やすことを考える地区もある。立地適正化計画で一律の人口維持を目指すということではないことを念頭に検討を進める必要がある。

- ・本日の議題は以上となる。

#### 事務局

- ・皆様から頂いたご意見を真摯に受け止め策定を進めたい。

#### **4. 閉会**

#### 事務局

- ・次回委員会（第4回）の開催は、令和5年7月頃を予定。日程調整等に関し、改めて連絡する。
- ・議題は、居住誘導区域、都市機能誘導区域の設定、誘導施策に関する具体的な施策の内容を示す。
  
- ・次回の策定委員会も忌憚のないご意見を頂きたい。
- ・以上で、第3回熊野町立地適正化計画策定委員会を閉会する。

以上